

# 農業技術 フリスム

## 「不知火」の露地栽培

### シロクローバーとの 養分競合認められず

かんきつ栽培の土壌管理は、土壌流出防止や地力窒素維持のため、草生栽培が有効です。シロクローバーは、草丈が低いほふく性のマメ科常

緑多年草で、根粒菌での窒素固定により畑作物では緑肥としての利用やミカンハタニタ

草を生やさない清耕栽培より多く維持されました。また、両栽培とも樹容積が9立方尺程度および収穫量が3ト/10坪程度、果実品質、葉中窒素量に差がないことから、シロクローバーと「不知火」との養分競合は認められませんでした。

敵（カブリダニ類）を温存するインセクタープラントとして、農業低減技術として期待されています。しかし、かんきつ栽培では、樹体との養分競合が懸念されるため、現地には普及していません。

露地栽培「不知火」のシロクローバーによる草生栽培は、樹体生育、収量、果実品質に影響することなく下草管理に活用できます。



試験圃場（ほじょう）の草生状況。左側はシロクローバー草生栽培区、右側は清耕栽培区

（県農林技術開発センター 果樹・茶研究部門 カンキツ研究室 室長 荒牧貞幸）